

I 研究の経過と概要

○東山梨地区保健体育科研究会のテーマについて

「体育分野における授業の効果的な指導法 ～授業形態や場の工夫～」

中学保健体育部会では、体育分野における授業の効果的な指導法に視点をあて、個々の身体能力に応じた学習形態や生徒が集団活動を通じてコミュニケーション能力や言語活動を育成すること。練習内容の工夫改善をすることにより生徒達により理解しやすく、基礎基本の習得をすることができるか。与えられた環境の中より有効な場を提供することもより質の高い授業の展開が可能と考える。授業実践や研究会を通し、教師自身もより高い実践力を高める必要があると考え、「指導形態や場の工夫」についての研究を行ってきた。「指導形態や場の工夫」を研究の柱に、各校で課題を設定し、その解決に向けて継続して研究を行ってきた。

○本レポートができるまでの具体的経過について

- H 2 7 . 4 平成 2 7 年度東山梨教協研究テーマの決定。前年度からの継続研究
「体育分野における授業の効果的な指導法 ～授業形態や場の工夫～」
- H 2 7 . 5 授業形態や場の工夫についての論議
- H 2 7 . 6 授業形態や場の工夫についての論議 統一授業研実施内容の決定
- H 2 7 . 9 統一授業研指導案検討実施
- H 2 7 . 1 1 統一授業研（授業実践）「球技(ネット)バレーボール」授業後研究会実施
- H 2 7 . 1 統一授業研反省
- H 2 7 . 3 平成 2 7 年度研究のまとめ
-
- H 2 8 . 4 平成 2 8 年度東山梨教協研究テーマの決定。「基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫」～アクティブラーニングを活用して～
- H 2 8 . 5 基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫の論議
- H 2 8 . 6 基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫の論議
統一授業研実施内容の決定
- H 2 8 . 8 統一授業研指導案検討実施（球技：ハンドボール）
- H 2 8 . 9 本レポートの検討、討議実施

○ レポート作成者・共同研究者について

レポート作成者

甲州市立勝沼中学校 教諭 飯島 春奈

共同研究者

東山梨教育協議会中学校保健体育部会

II 研究の内容

1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して指導形態と場の工夫を考える。
- (2) ICT機器を活用した授業実践及び研究をしていく。

2 研究の概要

- (1) 授業研究を通して、指導形態や場の工夫について考える。
〔11月「球技」(バレーボール・ネット型)〕
- (2) 各校による指導形態や場の工夫についての取り組みや実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究をおこなう。

3 授業実践

- (1) 単元名 「球技」(バレーボール ネット型) 中学2年生
- (2) 指導構想
「バレーボールの楽しさを味わい、確かな技能・知識の定着と
向上を目指す学習指導法の実践的研究」
- (3) 学習の道すじの工夫
 - ・ICT機器を活用し、自分の動きを確認することで自分の課題をつかみやすいようにする。
 - ・現時点での力量に応じて運動を楽しみ、深めていくように学習指導を進めていく。
 - ・特性に応じた学習のねらいによる学習過程を構成する。
- (4) 場の設定の工夫
 - ・基礎技能習得レベルにおいてステージを利用した場面設定など、数種類の練習場所を設定することで運動量を確保し、効率よく活動でき、効果的である。
 - ・自分の能力に応じた課題をもたせ、技術の系統性や難易度、技術の要点を示した学習資料やビデオ教材を活用するなど、徒自ら課題を解決していくための場の工夫をしていく。適正な人数や位置取りに注意することにより安全面にも配慮する。

III 成果と課題

効果的な指導法として「指導形態や場の工夫」に視点をあて研究を行ってきたが、学校の規模に応じた独自の指導方法や教材の使用、施設の利用など、特色ある授業形態を学ぶことができ、とても充実した研究になった。各校がそれぞれの場の工夫と、さらに学習資料を有効的に活用することで生徒達に基礎基本の定着や、課題解決へ向けての手だてや、運動に積極的に取り組む姿勢が学べたと考える。

今後は、学習過程での手段でもある言語活動にも視野を広げ、体育の授業を通しての人間関係作りやコミュニケーション能力の育成が効率よくできる授業形態や場の工夫について授業展開をしていく。また、言語活動を活発化させることで活動量が減らない手立ても今後の課題であると考え。テーマである、基礎基本の確実な定着ができるような授業を展開していくための手立てを、これからも積極的に研究していきたい。

第2学年 保健体育科 学習指導案

指導者 甲州市立勝沼中学校 飯島春奈

1 単元名 球技 「バレーボール」 ネット型

2 運動の特性

(1) 一般的特性

バレーボールはネットをはさんで、相対する2チーム（1チーム6人）が、サービス・パス・トス・スパイク・ブロック・レシーブなどを用いてボールを打ち合い、得点を競い合うスポーツである。3回以内のパスを有効に活用し、状況判断しながら、集団対集団での攻防を繰り返す、相手コートにいかにもボールを落とすかを競い合う種目である。相手のミスを誘ったり、作戦的に攻めたりして、いろいろなチームと勝敗を争うところに楽しさがある。練習やゲームを通して、瞬発力、巧緻性などの体力の向上を図り、個人的技能や集団的技能を高めながら互いに助け合ったりするなど仲間と楽しくグループで課題解決できる教材である。

3 生徒の実態

本学級の生徒は、全体的に明るく活発で男女の仲が良い。運動部に所属している生徒の割合が高く、授業では積極的に取り組む姿が見られ、関心の高さが伺える。しかし、日常的に体育以外はほとんど運動をしない生徒もいるので激しい運動や苦手と感じた種目には消極的になってしまう生徒が少なくない。昨年の授業よりバレーボールに対して興味・関心が高いが、技術面ではオーバーハンドパスやアンダーハンドパスがうまく狙ったところにパスできない生徒やラリーが長く続かないという課題点がみられるので、基本的な技能の定着の為に触球させる時間を確保させたい。

4 教師の指導観

バレーボールの基本技能を身に付けるとともに、チームとしての組織力をどのように上げていくかに重点をおき、生徒の実態に促した授業を進めていきたい。いかに全員の意識を高めた上での学習が行えるかも重要な問題もある。チームでの励まし合いや生徒同士での教え合いの場面で、十分なコミュニケーションを図っていきたい。また、自分たちでチームの課題に応じた練習を選択したり工夫したりさせながら、話し合い活動を充実させていく。「場の設定」では、コートを狭くしたり、人数を少なくしたりして個人がより多く触球できるような工夫や、ボールの空気圧を少し抜き「痛さ」の軽減を図るなどを行うことで、グループや各自の課題解決のための手だてとしたい。周りとのかかわりによって楽しんで練習やゲームに取り組むことができるよう指導し、良いプレーでのハイタッチ、拍手などを薦め、明るい雰囲気の中で学習できるように声をかけていきたい。教師主導の授業ではなく、生徒自身が考え行動できるような主体性のある授業を展開していきたい。

5 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること（技能）
- (2) 授業に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについて話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。（態度）
- (3) バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（知識、思考、判断）

6 単元及び学習活動に即した評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単 元 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・フェアプレイを守ろうとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・作戦などについて話し合いに参加しようとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ・自己やチームの課題を見付けている。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ・学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの特性に応じて、ゲームを展開するための基本的な技能や仲間との連携した動きを身に付けている。 ・空いた場所をめぐる攻防を展開するためのボール操作と定位置に戻るなどの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ・試合の行い方について、学習の具体例を挙げている。



学習活動に即した評価規準	<p>①バレーボールの授業に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②ルールやマナーを守り、フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>③自己の責任を果たそうとしている。</p> <p>④チームなどの課題解決に向けて、自らの考えを述べるなど、積極的に話し合いに参加しようとしている。</p> <p>⑥健康・安全を確保している。</p>	<p>①ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。</p> <p>②提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。</p> <p>④有効な攻撃の仕方について仲間と話し合ったり、ノートに書き出したりすることができる。</p>	<p>①パスの基本を身に付け、ボールをコントロールして、ラリーを続けることができる。</p> <p>②味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。</p> <p>③相手のコートの中へボールを返すことができる。</p> <p>④テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。</p>	<p>①バレーボールの特性や学習のねらい、学習の計画を理解することができる。</p> <p>②技術の名称や戦術、作戦などがわかり、それぞれのポイントを言ったり、書き出すことができる。</p> <p>③試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。</p>
--------------	---	--	---	---

7 指導と評価の計画 (全10時間)

時	ねらい・学習活動	関	思	技	知	評価方法
1	<p>ねらい:バレーボールの運動特性や学習のねらいについて理解しよう。</p> <p>学習の重点①仲間と協力したり、積極的に取り組む意義 ②分担した役割を果たす意義 ③健康・安全への留意点</p> <p>〈オリエンテーション〉</p> <p>○バレーボールの特性、意義、ねらいについて知る。 (VTR学習)</p> <p>○学習の進め方について確認する。 ・学習の約束、安全性とマナー ・用具の使用方法 ・学習カードの使い方・資料の活用方法</p> <p>○班作り</p> <p>○スキルテスト</p>				①	<p>観察</p> <p>学習カード</p> <p>グループ</p> <p>ノート</p>

2	<p>〈基本技能の確認と習得〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本姿勢 ○アンダーハンドパス・オーバーハンドパス ○サーブ ○対人パス ○円陣パス ○スキルアップドリル 	①	①		
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい：基本的な技能を習得し、今もっている技能を使って簡易ゲームを楽しもう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学習の重点①基礎・基本技術の正確な習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ②スパイクの仕方を身に付ける ③他者からのアドバイスから動きや技を把握する </div> <p>活動Ⅰ 基本技能の練習と簡易ルールของเกมで基本的なボール操作を身に付ける。(課題の確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コートやルールを工夫し、バレーボールの試合を体験し、理解する。 ・試合をするためにどのような技能が必要なのかを考える。 	②	①		<p>観察</p> <p>学習カード</p> <p>グループノート</p>
4	<p>活動Ⅱ 基本技能の習得と相手の打球に備えた準備姿勢の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス(対面移動パス) ・班対抗, 円陣パスの回数ゲーム。 ・サーブ練習(徐々にラインの外でできるようにする) ・基本の構えの習得(パワーポジションの意識) 			②	
5	<p>活動Ⅲ レシーブからトス, スパイクの動作を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セッターへのパス練習 サーブを打ち, そのボールを前衛の決められた場所へ返球し, セッター役がオーバーハンドパスであげる ・スパイク練習(踏み切り・腕の使い方等) セッター役がボールを投げてあげる 		③	④	

6	<p>ねらい：ポジションに応じたプレーヤーの役割を理解し、チームの特徴を生かしたフォーメーションの工夫をして、楽しもう。</p> <p>学習の重点 ①各ポジションの役割の理解 ②フォーメーションを工夫し、得意なプレイを生かす</p> <p>活動Ⅰ サーブとローテーションの習得，チームでの作戦会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ポジションがどのような役割をするのかを確認する。 ボールの操作と定位置に戻る動きの確認をする。 チームでそれぞれの特徴を考えながら，フォーメーションを考え，作戦を立てる。 ボールキャッチゲーム（作戦が有効的であるかの確認） 	④			<p>観察</p> <p>学習カード</p> <p>グループノート</p>
7	<p>ねらい 空いた場所への返球を意識して，これまで身に付けた技能を活用し，全員でパスをつなぎ，ゲームに積極的に取り組もう。</p> <p>学習の重点 ①空いた場所を見つけてねらう ②声をかけ合い，協力することの意義</p> <p>活動Ⅰ チームで協力して課題を発見し，その課題解決に向けた練習を行い，ゲームに生かすようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己やチームの課題に応じた練習 チームでの話し合いで出たことを意識して練習を行う 簡易ゲーム <p>活動Ⅱ 試合に必要な戦い方を身に付け，空いたスペースをねらった効果的な攻撃を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三段攻撃に近づく練習 チーム会議（ラリーを続けるために必要な要素の把握から点をとるために必要な要素の把握） 三段攻撃と空いたスペースへの攻撃（ICTの活用） 試しの試合（①キャッチ→②キャッチ・オーバーハンド→③スパイク） 	④	③		<p>観察</p> <p>学習カード</p> <p>グループノート</p>
8	<p>ねらい 空いた場所への返球を意識して，これまで身に付けた技能を活用し，全員でパスをつなぎ，ゲームに積極的に取り組もう。</p> <p>学習の重点 ①空いた場所を見つけてねらう ②声をかけ合い，協力することの意義</p> <p>活動Ⅰ チームで協力して課題を発見し，その課題解決に向けた練習を行い，ゲームに生かすようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己やチームの課題に応じた練習 チームでの話し合いで出たことを意識して練習を行う 簡易ゲーム 	⑤	②		<p>観察</p> <p>学習カード</p> <p>グループノート</p>
9	<p>活動Ⅱ グループ対抗リーグ戦（正規のルール） 審判講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> 各チームで競い，攻防を工夫する 	⑥		⑤	
10	<p>授業の反省・まとめ（自己評価・相互評価）</p>	③			③

8 具体の指導内容及び学習活動に即した評価規準（第2学年）

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
<p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール独自の楽しさや安全性、公平性が確保されること。 ・バレーボールに楽しみながら活動すること。 <p>【評価規準】</p> <p>①バレーボールの学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーフェアプレイを守り、相手の良いプレーを健闘したり、失敗を励ましたり、認めたりすること。 <p>②ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にし、仲間と声をかけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割を果たし、お互いを尊重する気持ちが強くなること。 <p>③自己の責任を果たそうとしている。</p>	<p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や具体的な行い方や活用方法の掲示。 ・基本的な知識・技能の理解。 <p>【評価規準】</p> <p>①ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた基礎的・基本的技能の確認をし、自己やチームの課題を見付ける。 <p>②自己やチームの課題を見付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分担した役割に応じた協力する場面の設定。 <p>③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。</p>	<p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを受ける前の準備姿勢を身につけていること。 ・パスの基本的な技能を身に付けている。 <p>【評価規準】</p> <p>①パスの基本を身に付け、ボールをコントロールしてラリーを続けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラリーを続けることを重視し、相手に返球する位置をコントロールすること。 ・ポジションにおける役割や状況に応じてボールを操作してつなぐこと。 <p>②味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レシーブ・トス・スパイクの基本的な技能を身に付け、相手側のコートへボールを返すことができる。 <p>③相手のコートへボールを返すことができる。</p>	<p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相対する2チームが、サービス・パス・トス・スパイク・ブロック・レシーブなどを用いてボールを打ち合い、得点を競い合うスポーツである。 <p>【評価規準】</p> <p>①バレーボールの特性や学習のねらい、学習の計画を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット型では、巧緻性、敏捷性、瞬発力、持久性などが求められる動きに関連して高められること。 <p>②技術の名称や戦術、作戦などがわかり、それぞれのポイントを言ったり、書き出すことができる。</p>



・仲間や自分の考えを伝え合うことが大切であること。



④チームなどの課題解決に向けて、自らの考えを述べるなど、積極的に話し合いに参加しようとしている。

・チームの作戦や戦術などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりすること。
・仲間と連帯感を高めて気持ちよく活動すること。



⑤仲間の学習を援助しようとしている。

・用具の扱い方や練習場所など安全に留意すること。
・危険を予測し、状況に応じた行動を行うこと。



⑥健康・安全を確保している。

・空いている場所を見付け、攻撃をする作戦や戦術の例示を提示。
・チームの特徴に応じた作戦について話し合う場面



④有効な攻撃の仕方について仲間と話し合ったり、ノートに書き出したりすることができる。



・肩より肘を高く上げ、高い打点でボールをとら



④テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。

・プレイが始まる前に、フォーメーションに合ったそれぞれの定位置に戻ることに



⑤プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻るることができる。



・ゲームのルールには、サービスやレシーブの位置と順序、ゲームの勝敗がある。
・審判の行い方にはゲームの開始方法、進め方、得点の方法、コールの仕方があること。



③試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

9 本時の展開 (7 / 10)

(1) 本時の目標

- ・相手のコートの空いた場所へボールを返すことができる。
- ・ボールをつなぐための手立てと有効な攻撃の仕方について仲間と話し合ったり、ノートに書き出したりすることができる。

(2) 本時の学習評価

- ・レシーブ・トス・スパイクの基本的な技能を身に付け、相手側のコートの空いた場所へボールを返すことができる。(運動の技能)
- ・攻撃に有効なボール操作の仕方を見付けることができる。(運動についての思考・判断)

(3) 展開

	学習内容・活動	評価方法及び評価規準
はじめ	1 ウォーミングアップ 2 点呼・挨拶・健康観察 3 本時のねらいにつながる基本練習 ・スキルアップドリル (1分間サーキット形式) ① 2人組アタック ② サーブ ③ 三角パス (オーバーハンドパス) ④ 直上アンダーハンドパス ⑤ 円陣パス 4 本時の学習の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態を観察し、体調の悪い生徒について無理をさせないように配慮する。 ・体をほぐし、主運動に関連する体力要素の補強運動を行うとともに、バレーボールの基本的技能の習得につなげる。 ・確認ポイントをチェックしながら課題を見付けさせる。 ・本時の学習内容とねらいについてしっかりと理解させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> ねらい：攻撃に有効なボール操作の仕方を見付けよう。 </div>	
なか	5 グループごとで三段攻撃に近づく練習 ・投げ入れサービス→キャッチレシーブ→トス (キャッチ) →スパイクをローテーションで行う。 6 チーム会議 課題 「どういった方法で点がとれるか考えてみよう」 ・ラリーをつなげることはどういうことが必要か 確認してからその逆を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全への配慮のため、ボールが転がったり、足の使用禁止などの事項を伝える。 ・班のメンバーに適切な声かけをするように促す。 ・技能のポイントを的確につかませる。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム全員がひとつのボールの動きに反応 ・ボールの移動中に、素早く位置に入る ・体の向き(準備して構え)パスしたい方向へ
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 評価：攻撃に有効なボール操作の仕方を見付けることができる。 </div>	

<ul style="list-style-type: none"> ・課題についてチームで話し合い，学習ノートに記入する 味方が操作しやすいボール 相手の空いているスペースをねらう ・全体で課題の確認をする。 <p>7 相手側のコートの空いた場所にボールを返すことを身に付けるための練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守備チーム①サーブ②3カ所の角に移動 ③ボールをキャッチし，おへそを相手コートに向ける ・攻撃チーム①レシーブ②オーバー ③スパイク (空いているスペースに打つ練習) ④空いているスペースの指示 <p>8 作戦タイム</p> <p>この練習から，個人やチームの課題を把握 (iPad を見て個人の動きを振り返り，仲間の動きもできているか伝える。)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>課題から作戦を立てて次時のミニゲームに生かす</p> <p>9 ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えた作戦を使い，ゲームを行う。 ① 1 班対 2 班 3 班対 4 班 5 班練習 ② 5 班対 1 班 2 班対 3 班 4 班練習 (相互審判で行う) 	<p>【チームの学習ノート】で評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの現状を把握し，ボールをつなげるために何が必要かを考える。そこから点を取るための方法を見付け出していることを学習ノートより判断する。 <p>●努力を要する状況の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習資料などを活用してチームでの話し合いを促し，確認させる。 ・課題が出ない場合はラリーをつなぐときの逆を考えさせ，ヒントを与える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価：レシーブ・トス・スパイクの基本的な技能を身に付け，相手を見ながら打ち分けること。</p> </div> <p>【観察評価】を行う。</p> <p>○練習の際，生徒の具体的な学びの姿から，状況を判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手側の空いた場所にボールを返す姿。 (ネットの手前，コートの奥，人と人の間を打ち分ける) ・仲間が上手にできるように的確なアドバイスをしている姿 ・仲間のプレーを褒めたり，励ましたりして協力する姿 ・仲間の動きを見て，できているかどうか伝える姿。 <p>●努力を要する状況への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別にポイントを焦点化して，課題を見付けさせる。 ・課題を見付けるために，iPad の画面をゆっくり再生したり，静止したりすることの有効性を伝える。
---	---

ま と め	<p>1 0 用具の片付け</p> <p>1 1 本時のまとめと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習やゲームの結果, iPad の映像をもとに仲間同士で課題の確認を行い, 本時の授業記録をまとめる。 ・学習の成果や課題などをまとめて発表する。 ・次回の内容を確認し, 見直しをもつ。 	<p>【学習カード・発言観察】から評価材料を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この時間の成果 (何がどのくらい上手になったか), 課題 (何が足りなくて次回に向けて, どのような練習が必要なのか) を学習カードから把握。(学びの振り返り) ・各チームの話し合ったことを発表させる中で, 振り返りがしっかりできているか。 ・他のチームの解決策も参考にしようとしているか。
-------------	---	--

〈レシーブ・トス・スパイクの3段攻撃のマスター〉

- コートについてはバドミントンコートで行う。
- ネットの高さは約2m

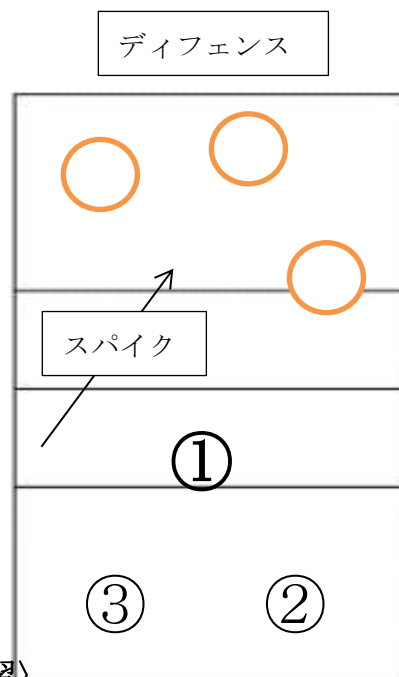
練習の方法

攻撃側から投げ入れサーブを行い, レセプション側はサーブレシーブから3段攻撃につなげていく。

キャッチありレシーブ→セッター→スパイクを組み立てる

サーブ権が自チームに来たときにローテーションする

3回以内で相手コートに返して1人1回しかボールに触れない



〈相手側のコートの空いた場所にボールを返すための練習〉

ねらった場所へスパイク練習

○攻撃側

- ・守備からの投げ入れからレシーブ→トス→スパイクする。
- ・空いているスペースを見付けてねらう。指示する。

○レセプション側

- ・作戦を立てて3人で4つの角のどこかに移動し, ボールをキャッチする。
- ・iPad 係は撮影を行う。

チーム6人 ○攻撃チーム ①②③攻撃

④⑤声かけ (空いているところの指示)

⑥iPad 係で撮影

○レセプションチーム ①②③守備1 ④⑤⑥守備2

